

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年5月1日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ」産卵母貝を救え！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年4月8日、福山市環境保全課と学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校の環境科学研究部により「スイゲンゼニタナゴ」の調査が水土里ネット福山の用水路で行われました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

福山市では、スイゲンゼニタナゴを守るため「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が発足し、疏水百選にも選ばれた「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴが生息していることから、水利権者として水土里ネット福山も協議会の一員となっています。

水土里ネット福山が管理しているこの用水路は、下流の3つの水系に分水する施設で平成7年度に改修した際、スイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れ自然護岸を整備しました。

今回この用水路全体を浚渫することとなり、調査で採取した産卵母貝を一旦別の場所に保護し浚渫が終わり次第、元に戻すこととなりました。

環境科学研究部顧問の古本哲史先生、環境科学研究部の生徒、福山市環境保全課、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会の一員であるスイゲンゼニタナゴを守る市民の会が参加され、スイゲンゼニタナゴの産卵母貝の調査が始まりました。



採ったぞお！貝を見せます！



みんな手探りで懸命に採取しました！

水位が下がった用水路は、自然護岸として整備された岩が露わになり下流の樋門手前には泥が堆積し藻が生えており上流には歩くと足を取られるほど泥が堆積していました。

生徒たちは、ユニホームである胴長に着替えて準備万端です。貝の感触を確かめるため薄手の肘までの長さの手袋をはめ調査しました。中には素手で調査をする生徒もいました。

護岸の桜も満開の温かな日で調査をしていると汗ばむ陽気で中には半袖で調査する姿もありました。

調査チームは、水門に近い下流から一列に並んで調整池へ入り、横一列に並んで、一斉に上流に向けて調査を開始です。這いつくばって、手で池の底を浚いながら貝を探していきます。貝を見つけると大きな声で貝の名前を言うと先生が確認し位置を地図に記載され、毎年の貝の分布を比較されます。

今年は、全体的に貝が少なく生徒たちにも疲労の様子が見えていましたが、先生が「早う終わらんと魚の調査の時間がなくなるよ。」と言われると一気に元気になり貝の調査を終わらせ、今度は魚を網ですくって採取し種類別に調査しました。



みなさん調査お疲れさまでした！



100匹以上の貝を一時避難！

調査後に先生から「20年以上も同じ場所で調査している所は非常に珍しく、今回初めて全体の浚渫をされることになり、今までの調査内容が重要になってくると思う。」と話されました。

20年以上調査してこられ、調査に参加した生徒が卒業して大人になり「ここでの調査が一番しんどかった。」と話されるそうで、辛い調査ですが一番の思い出となっているそうです。

4月10日から浚渫工事を施工しました。平成7年度に改修して以来、沈砂池など一部を浚渫したことはありましたが、全体を浚渫するのは初めてとなります。



浚渫は専門業者が施工しました。  
堆積した泥を水圧で洗浄し、バキュームで吸い取ります。岩は一つひとつブラシで洗って洗浄され、改修当時の川底の砂が甦りました。  
浚渫が終わると一時避難していた貝を戻し、元の農業用水路へ戻りました。

水土里ネット福山は「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」の一員として、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できる水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに、こうした活動をレポートとして広く多くの方々へ農業用水の果す社会的役割の重要性を発信し21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。